

2019(令和元)年度の行動計画

重点	取組目	具体的な取組			中間評価・今後の取組等	年度末評価・改善案・次年度取組等
		担当	取組内容	活動指標・評価指標		
基礎学力の定着を目指します	授業規律の確立を図ります	教務	集会時等に、教務部として授業規律について話す機会を持つと共に、全教職員の共通理解で行えるよう努めます。教職員間の情報交換を活発にし、校内巡視を行い、現状を把握し、怠け学の生徒を減らすよう努めます。	アンケート等を利用して調査を行い、その内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集会時に生徒に授業規律について話す機会を持った。 ・生徒指導部が授業開始前に巡視・声かけを行ってくれていることもあり、授業を受ける準備をすることは定着しつつある。 ・授業中の携帯電話の使用については、かなり改善されてきている。 ・今後も全職員共通理解のもと取り組んでいきたい。 ・アンケートは今後実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前に比べ、授業規律は大幅に改善されている。 ・生徒への授業アンケートでは、「授業での教師の対応」について肯定的な意見が、携帯92%(前年比+6%)、私語87%(-4)、居眠り88%(+1)と、前年度よりやや落ちたものもあるが、高い水準を維持している。 ・すべての生徒が規律を守れるように努めていく。 ・次年度も全職員共通理解のもと今年度同様に取り組みたい。
		生指	授業担当者、担任をはじめ、教職員がお互いに連絡を密にすることで、正しい生活習慣を定着させるとともに、授業規律を守るように指導をします。授業時間ごとに巡回指導をおこなうことで怠け学を減少するよう努めます。	怠け学者を年間10名以内にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の巡回によって怠け学として特別指導に上げるようなことはない。今後も巡回指導を継続し、未然に防ぎ、困難な授業があればそれについても協力していきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・怠け学で特別指導に上げることはなかったが、巡回中、未然に防いだ件は数件ある。巡回指導の重要さは実感できる。授業を大切に、集中できるよう、来年度も継続していきたい。
	基礎学力の向上を図ります	教務	レベルアップ基礎学力などの基礎・基本的な授業の検証を行い、入学年度により多くの生徒が選択受講するように働きかけていきます。また、アクティブラーニングを取り入れた授業を推進することで、基礎学力の向上を目指します。	アンケート等を利用して調査を行い、その内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の担当者には、基礎学力の向上を目指し授業を工夫して頂いている。 ・学校全体として、アクティブラーニングの理解を深め、生徒の意欲を引き出す授業改善に努めて頂いている。 ・新入生への講座登録説明で働きかけた結果、三修制受講者26名の内、19名が「レベルアップ」を、12名が「基礎知識」を受講している。 ・アンケートは今後実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上のため、各授業担当者は興味・関心がもてる授業を工夫している。 ・「興味関心を引き出す授業」や「わかりやすい授業」に向けた改善がなされている。 ・生徒への授業アンケートでは、肯定的な意見が、興味関心83%(前年比+4%)、内容理解84%(-8)、満足度85%(+3)となった。 ・前年より数値がやや落ちたものもあるので、より一層授業内容への興味関心を高め、内容の理解を深め、満足度を高める授業への取り組みを進めていきたい。
	授業の充実と改善を図ります	教務	授業公開週間のあり方について検討し、さらなる授業の充実と改善を行います。	アンケート等を利用して調査を行い、その内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間では、「アクティブラーニング」と「コミュニケーション能力の向上」も考慮に入れた授業をお願いしている。 ・11月に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブラーニング」、「コミュニケーション能力の向上」を考慮に入れた授業公開を実施した。 ・趣旨の理解を徹底し、職員が授業見学しやすい方法を検討する。
		図書	総合的な探究の時間及び調べ学習の授業等で図書館利用を推進していきます。読書週間等を利用し読書・学習の大切さをアピールします。	自習以外の図書館の利用回数で計る。	<ul style="list-style-type: none"> ・10月1現在、テーマ別学習が8回・6時間、授業利用が35回・50時間の利用があった。うち司書による授業支援サービスを行ったのは16回であった。また、自習のみの利用は38回・約57時間あった。自習による利用は体育館の室温が高いことや、生徒が集まらず授業が成り立たないといった理由であった。 ・今後の取組は、授業利用サービスの周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月現在、テーマ別学習等が13回・約9時間、授業利用が53回・約79時間の利用があった。うち司書による授業支援サービスを行ったのは26回であった。また、自習のみの利用は94回・約140時間あった。他館からの資料借受や自館の資料及び機材を使用した授業支援ができた。事前に使用することが分かっていたらよりよい支援ができることが多いと感じる機会が多かったため、次年度は周知に必要な物理的な紙などをつくる。
	授業でのICT等の活用を通じ学習意欲の向上を図ります	教務	授業でのタブレットやプロジェクターの活用を進め、生徒の学習意欲が高まる授業の研究を推進します。	ICT機器の貸出簿や生徒・教職員のアンケート等の内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット貸出簿では4月3回、5月5回、6月4回、7月6回、9月4回と昨年度よりは活用されている。 ・具体的活用方法がわからないとの声もあるので、授業公開等を通して活用例を学べる機会を増やす。 ・プロジェクターのある部屋の利用は、4月4回、5月5回、6月11回、7月7回、9月6回授業で利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット貸出簿では10月8回、11月10回、12月2回と、ある程度活用されている。 ・プロジェクターのある教室の利用は、10月10回、11月9回、12月23回、授業で利用されている。 ・上記以外に、理科室・パソコン室のDVD・PCも活用している。 ・タブレットを活用した授業の在り方の検討を続けたい。

2019(令和元)年度の行動計画

重点	取組	具体的な取組			中間評価・今後の取組等	年度末評価・改善案・次年度取組等
		担当	取組内容	活動指標・評価指標		
生徒自身の自己成長を支援します	通級指導をはじめ、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の向上等、社会的自立に必要な基本的スキルを育み、仲間づくりや個々の課題の克服を支援します	教務	アクティブラーニングの推進、コミュニケーション学習・通級指導授業への全教職員の参加により、その成果等を共有し、学校全体として、その能力の向上を目指します。	生徒や教職員のアンケート等の内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 各先生方には、日ごろからコミュニケーション能力の向上に取り組んでいただいている。 コミュニケーション学習では、毎回生徒や職員にアンケートを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果では、「質問や意見を言いやすい」と感じている生徒が、89%（前年比+3%）と増加している。他生徒の意見を尊重したり、発言しやすい雰囲気づくりにより、生徒が自信をもって取り組めるようになってきている。
		生指	教職員から生徒一人ひとりへの積極的な声かけを大切に、生徒が自分の意思を伝えやすい雰囲気を作ります。また、生活の基本である挨拶を身につけることでコミュニケーション能力の向上につなげます。	月1回実施の声かけ期間中、生徒の半数以上が自ら挨拶する。	<ul style="list-style-type: none"> 4月から毎月、どの月も6割程度の生徒が自ら挨拶をすることができている。今後、更に一層、生徒が自ら挨拶ができるよう声かけをし、コミュニケーション能力の向上につなげます。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、ほぼ、6割程度の生徒が自ら挨拶をすることができている。来年度も声かけ週間を継続し、生徒が自ら気持ちよく挨拶をし、コミュニケーション能力を高められるようにしていきたい。
		生徒会	クラブ活動の活性化を推進し、生徒会の各行事を通じた仲間との交流や個々の生徒の達成経験を通じた協調性と自信の育成を支援していきます。	各行事において満足度調査を行い、満足度80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「満足した」「どちらかという満足した」が全体の85%を占めた。また協調性や自信が得られた趣旨の意見も多くみられた。今後も生徒同士の幅広い交流をさらに支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事のアンケートで「満足した」「どちらかという満足した」が年間平均で全体の87%を占めた。 各行事にて生徒間の交流が多く見られた。 次年度も継続して生徒間の交流の機会を支援していく。
		教育相談特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ①全校生徒対象のHR単位でのSSTを「総合的な学習の時間」に取り入れ、年2回実施します。 ②社会に適応していくうえで、コミュニケーション能力の向上が望まれる生徒を対象に、6月に4回、11月に4回のSSTを実施し、次年度からの通級による指導につなげます。 ③就労年度の生徒で、特に必要と思われる生徒に対し、夏季休業中に、直接就労に役立つ内容のSSTを3日間集中して実施します。 ④通級による指導として「コミュニティデザインA」を実施するとともに、来年度から実施する「コミュニティデザインB」「未来デザイン」のあり方や内容を構築し、生徒の社会的自立を促します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①については、生徒アンケートと指導者アンケートを実施し、3分の2以上に「満足」という評価を得ること。 ②③④については、対象生徒の目的意識の持ち方や取り組み方、実施後の様子などを鑑み、指導者による評価において、高く評価できる生徒の数が3分の2以上になること。 	<ul style="list-style-type: none"> ①7月実施のHR SSTについては、事後のアンケート結果より、評価指標を達成することができた。 ②6月に実施予定であった放課後SSTについては、希望者がなく、実施することができなかった。これは、今年度から通級指導を導入したことによるものと思われる。 11月には次年度からの通級指導受講希望者等を集め、実施したい。 ③6名の生徒が参加し、3日間の作業トレーニングを実施したが、それぞれの強みや課題を具体的に把握することができ、指導や実習につなげることができた。 ④コミュニティデザインAの実施状況は良好で、生徒それぞれの課題の克服に向けて取り組むことができた。1学期末に実施した受講生徒と保護者との面談においても、授業の効果を感じられる話し合いができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①HR SSTについては、事後のアンケート結果において、7月11月とも評価指標を達成することができた。 ②6月に実施予定であった放課後SSTについては、希望者がなく、実施することができなかったが、11月は5名の生徒が参加し実施し、評価指標を達成することができた。また、次年度通級指導を受講したいと考えている生徒に受講させることもできた。 ③6名の生徒が参加し、3日間の作業トレーニングを実施したが、それぞれの強みや課題を具体的に把握し、指導や実習につなげられ、氷塊指標を達成することができた。 ④コミュニティデザインAの実施状況は良好で、生徒それぞれの課題の克服に向けて取り組むことができ、評価指標を達成することができた。1・2学期末に実施した受講生徒と保護者との面談においても、授業の効果を感じられる話し合いができた。「コミュニティデザインB」と「未来デザイン」の受講のしかたや位置づけを明確にすることができた。
自己肯定感の育成を図ります	教務	総合的な探究・学習の時間等を通して、生徒一人ひとりがそれぞれのテーマに積極的に参加し、活動する機会を増やします。	テーマ別学習の回数や生徒の出席状況等で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> テーマ別学習では、意欲的に参加し、楽しく活躍している生徒が多く見られる。まだ、他のメンバーと馴染んでいなく、消極的な生徒は今後の活動で取り込んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ別学習において、幅広い経験をする機会を与えるために、各先生が創意工夫したテーマで実施した。 教育活動全般において、先生方が生徒の良い点を積極的に褒める姿勢で接している。 	
	生指	生徒とのコミュニケーションを大切に、生徒と向き合う中で、学校、社会でのルールを守ることの大切さを指導していきます。教職員との連携をはかり、問題行動に素早く対応し、生徒の自立・自信・成長を支援していきます。	問題行動の発生件数を5件以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ問題行動による特別指導は0件。今後も大きな問題になる前に、生徒ととのコミュニケーションを大切に、教職員の連携をはかり、問題行動に素早く対応していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は問題行動による特別指導は0件。自分を大切に、人の気持ちを考えるよう指導をしていきたい。また、教員間の連携をはかり、問題行動に素早く対応していきたい。 	
	生徒会	体育祭、文化祭、クラスマッチなどの学校行事の運営に生徒会役員や各種委員会を中心として、生徒が積極的に参加し、その経験を通して自主的に行動する姿勢を身につけ、自信を持つことができるようサポートしていきます。	各行事において参加率および満足度調査を行い、それぞれ85%以上を目指す。また、各行事に向けて生徒会役員会を月複数回実施したり、役員以外にも役割を与え、行事への参加意識を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では参加率78.8%、満足度85%であり、参加率にはまだまだ課題が残るものの満足度では成果指標にあげた数字が出ている。また役員会等で生徒が自主的に行動する姿も見られるようになってきた。今後もより生徒が行事に参加し、活躍しやすいよう環境を整える。役員会等では、より責任のともなう役割を生徒に割り振り、達成感を感じられる機会をさらに増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加率は年間平均で73%、満足度は年間平均で87%となった。 年間の生徒会行事を通して、生徒が自主的に活動する姿が多く見られるようになった。 役員会等で生徒に仕事を割り振ったことで、責任をもって仕事に取り組む姿勢が身についた。 アンケートで得られた、生徒会行事の内容や時間配分等の希望を再検討し、来年度へ引き継ぎたい。 	

2019(令和元)年度の行動計画

重点	取組目	具体的な取組			中間評価・今後の取組等	年度末評価・改善案・次年度取組等
		担当	取組内容	活動指標・評価指標		
命を大切にするとともに、いじめを許さない教育を推進します	総務		定期的に「いじめに関するアンケート」を実施することにより生徒の声を把握し、いじめ事案の早期発見・早期対応を図ることに努めます。	学期に1回アンケートを実施する。	・1学期、2学期とアンケートを実施。アンケートの回答にはいじめにつながるような記述は出てきていないが、早期発見、早期対応に繋がれるようアンケート内容、取り方、回収方法等を含め一度見直し、改善していく必要がないか検討していく。	・これまでの様式を見直し、より生徒が記入しやすいアンケートとなるよう改訂して3学期は実施。(1月末実施予定) ・生徒が日ごろ仲間内で何気なく使っている言葉の中には、周囲を不快や不安にさせるものがある。そのような発言等に対して今後も根気強く対応し、安心して登校できる環境を作っていくよう努めていく。
	生徒指導		集会時等に、「命を大切にすること」「いじめを許さないこと」について話す機会を持ちます。また、授業担当者、担任をはじめ教職員が互いに連絡を密にすることで、いじめ事案の早期発見・早期対応に努めます。	いじめの重大事態発生件数0。	・重大事態につながる前に、被害者にきちんと対応し、周りが不快に感じるような発言、行動がないよう早期発見、早期対応に努めている。	。アンテナを高くし、担任を始め、教職員の連携をはかり、重大事態につながる前に早期発見、早期対応に努め、いじめのない学校にする。
人権を守るための実践行動ができる力を育み自らの進路や生き方を主体的に考える力を育成します	人推		①人権LHR実施にあたり、人権教育推進計画に基づき各学年会で指導案作成し、全教員で検討します。 ②学校行事「人権を考える集い」「人と人とのきずなをつくる集い」を人推部会が企画し、人権サークルTHRで司会進行を行います。 ③人権サークルTHR21の活動を生徒主体で行い、毎月1回以上行います。	①全校生徒の理解度・満足度がともに75%以上 ②全校生徒の理解度・満足度がともに80%以上 ③2つの集いの向けでは、月に複数回実施する	・人権LHR実施にあたり、取組中 ・「人権の集い」については、理解度・満足度とも95%以上ありました。 ・人権サークルでは月1回以上活動が出来、「人権を考える集い」は司会や交流会も生徒主体で出来ています。	・全学年において人権LHRには副担任も入り、円滑な指導が出来た。来年度以降もこの体制でお願いしたい。また、担任の先生がクラスに応じた教材等を準備してくださったお陰で、生徒の理解度、満足度ともに95%以上でした。 ・2つの集いに関してはTHR21のメンバーが準備、当日の進行で大きな戦力となり、参加生徒の理解度、満足度も指標を上回った。 ・人権サークルでは月1回以上活動が出来、「人権を考える集い」、「人と人とのきずなをつくる集い」は司会等も生徒主体で出来ました。
	進路		講話等の進路行事では、自らの進路や生き方を主体的に考える機会にするよう努めます。	・年3回以上の講話等の進路行事を開催する。 ・卒業時の進路未定0を目指す。	・1学期中に講話等の進路行事を2回実施した。残り1回は1月に実施の予定。 ・卒業予定者で「全くの未定」の生徒2名(9月末現在)面談等を通じて進路の方向性を探る。	・講話等の進路行事を3回計画できた。 ・講話等の進路行事は、時期や内容などを精査したうえで来年度も実施していく。 ・「全く未定」の卒業予定者には担任や各方面等と連絡を密にとり進路決定の支援をしていく。
生徒の心理理解に努めます	教育相談		①10月実施の教育相談週間の面談において、専門のカウンセリングを要する生徒を把握するための調査を全クラスで実施し、100%スクールカウンセラーに繋げていきます。 ②担任が「カウンセラーによる教育相談がその後の活動につながった」と感じられるようにしていきます。	①10月実施の教育相談週間の面談において、専門のカウンセリングを要する生徒を把握するための調査を全クラスで実施し、100%スクールカウンセラーに繋ぐ。 ②「カウンセラーによる教育相談がその後の活動につながった」とする担任が8割以上となること。	①調査については現在準備をしており、実施予定である。 ②スクールカウンセラーと教育相談担当、養護教諭による情報交換の時間を設定し、必要な情報を共有するとともに、担任につなげるよう心がけている。また、必要に応じて、スクールカウンセラーと発達障がい支援員やスクールソーシャルワーカーをつなぎ、話し合える場を持つようにしている。	①カウンセリングを要する生徒を把握するための調査を行い、スクールカウンセラーに繋ぐことができた。 ②スクールカウンセラーと教育相談担当、養護教諭による情報交換の時間を設定し、必要な情報を共有するとともに、担任につないだ。また、必要に応じて、スクールカウンセラーと発達障がい支援員やスクールソーシャルワーカーをつなぎ、話し合える場を持つようにし、担任への助言を行った。
健康相談の充実を図ります	保健		心が安らぎ、自分の心身と向き合えるような、また何でも話せるような、雰囲気作りと環境整備に努めます。	健康に対する意識調査を行い、その結果をもとに評価する。	・2学期後半に意識調査や実態調査を行い、よりよい保健相談・保健指導の糧とする。	・「悩み事を相談できる人」について、「いる」が昨年度比6%増の【86%】でよい傾向にあるが、「いない」は1%減で【14%】を占める。人数に直せば15人であるが、保健部としては常にこの生徒に接するつもりで保健室経営を続けたい。
保健指導や保健管理を充実します	保健		生徒の日常生活や家庭生活の実態に沿って、全体または個別の保健指導を進めます。	保健だよりを、生徒の実態や興味に合った内容にし、月刊で発行する。	・4月以降、「保健室の紹介」「健康な歯」「熱中症予防」「生活のリズム」等のテーマで保健だよりを配布してきた。下半期も継続の予定。	・「保健だよりに」について、「読む」または「すこし読む」と回答した生徒の合計が、昨年度比7%増で【81%】を占めた。季節に応じた話題を選んでいることと同時に、配布時に担任から一言触れてもらっていることも一因と感謝している。

2019(令和元)年度の行動計画

重点	取組	具体的な取組			中間評価・今後の取組等	年度末評価・改善案・次年度取組等
		担当	取組内容	活動指標・評価指標		
	図書館での生徒の成長を支援します	図書	図書館の利用を主に、生徒の活動の支援を行います。生徒の視野を広げるために多種多様の資料を揃え、利用を促進していきます。また各種試験などに対し資料提供を行うことで支援を行います。	貸出数及び図書館サービス利用人数で計測	<ul style="list-style-type: none"> 10月現在、全体貸出数は昨年と同時期より若干減少している。貸出数が増加したのは17学年と先生だった。17学年は特定の生徒が貸出数を増やしていた。レファレンス（クイックレファレンスを除く）件数は26件・15人であった。館内で読む生徒が多く、貸出をして持ち帰ることが負担に感じているという意見が一部あった。今後の取組みとして図書利用の案内や展示をして貸出につなげたい。またフロアワークを増やしサービスの利用につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度と比較して50冊以上貸出冊数が増加した。10月以降19年生と18年生の貸出が伸びた。特に貸出数が増加したのは17学年と先生だった。どの内容の資料もまんべんなく貸出が増えたが、哲学と漫画の貸出が減少した。特に増加した内容は歴史・地理と文学であった。レファレンス（クイックレファレンスを除く）件数は33件・21人であった。フロアワークやカウンターで直接会話したりおすすめした資料は貸出につながったので次年度も継続して行いたい。新しい哲学や自己啓発本といった資料を増やし貸出につながるよう取り組む。
キャリア教育を充実させます	計画的に教育活動全体を通して推進します	教務	進路先で求められる、基礎学力、コミュニケーション能力、生活習慣定着を各授業を通して推進します。	生徒や教職員のアンケート等の内容で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎学力」、「コミュニケーション能力」、「生活習慣定着」を学校全体の共通認識のもと、それぞれの授業で取り組んでいる。 アンケートは今後実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎学力」、「コミュニケーション能力」、「生活習慣の定着」について、学校全体で共通認識のもと行っている。 授業アンケートの結果を職員会議で共有し、今後の改善に努めたい。
	早期から就労・就職支援を進め、生徒一人ひとりの進路実現を目指します	進路	<ol style="list-style-type: none"> 積極的な進路開拓に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> 事業所開拓を行います。 ハローワーク等との連携を図ります。 各種学校の情報収集に努めます。 進路に関する情報提供に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> 講話等の行事を年間2回以上開催します。 大学や専門学校を招くガイダンスを年間1回開催します。 オープンキャンパス等の情報を随時提供します。 進路だよりを年間3回以上発行します。 面接指導を実施します。 進路希望調査を年間2回実施します。 進路室の資料の整理に努めます。 インターンシップを実施します。 アルバイト情報を提供し学業との両立を勧めます。 就業先調査を年間2回実施します。 キャリア教育に係る年間計画を検討します。 できるだけ早い時期から、生徒との進路面談を行います。 卒業生の就職先を訪問し、就労状況の確認および職場定着支援に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内求人票を前年度（102社150職種）より多くもらう。 9月出願の1回目就職試験受験者数を前年13.3%（就職希望者15名中2名）より増やす。 未内定卒業生0人を目標とする。 ミスマッチによる早期離職や早期退学・入学辞退を0にする。 卒業生の就職先を1学期中に2社以上訪問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次県内求人112社158職種。 9月就職試験出願者は26%（就職希望者23人中6名）で去年より増加。 卒業生の就職先を1学期中に6社訪問。 AO入試一般推薦入試受験者5人（9月末現在） 就職希望者で進路未定の生徒に対して支援を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内求人（132社190職種） 1年未満の早期離職2人 生徒の就労に対する意識を高めていくことが課題である。進路行事等を精査するとともに、担任や特別支援担当とも連携を取って対応していく。また、ハローワーク等の関係機関ともしっかりと連携し生徒の支援を行うよう努める。 大学2人、専門学校2人合格 大学入試の情報収集および提供を行い、入試の支援に努める。
	特別支援	就労において特別な支援が必要な生徒を対象に、担任を通じ、本人の意向を確認しながら、ハローワーク等とも連携しながら、就労先の開拓と就労支援を行います。	就労支援対象とした生徒の8割が、本人の希望に添った進路を実現できること。	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象生徒には、まず夏季休業中の実習を勧め、3日間の実習を体験し、高い評価を得ることができた。その後、伊勢市障がい者就職応援フェアに参加し、3事業所の面接を受けた。現在、ハローワークと連携し、職場見学に行く予定があり、継続して支援を続けることになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象生徒には、夏季休業中B型就労継続支援事業所での3日間の実習を体験の後、伊勢市障がい者就職応援フェアに参加し、3事業所の面接を受けたが、事業所側の都合により就労には繋がらなかった。ハローワークと連携し、職場見学に行った事業所のうちの1つで実習した後、就労に繋げていく予定で進めている。 	
ものづくりの専門性を生かした職業教育を推進します	ものづくり工学科	<ul style="list-style-type: none"> 実習を通して働く心構えなどを身につけられるよう指導に努めます。 実習前の点呼、挨拶の励行 安全のため作業服着用を全生徒に徹底し、声を出して挨拶、返答ができるようにする。 遅刻をしない。 終了時、全員が協力して片づけ、掃除をする。 実習内容を理解し、安全に作業ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に生徒アンケートを実施し、自主的にできたか、できるようになったかをチェックする。 今年度も90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習時、チャイムと同時に整列点呼・服装チェックは徹底され、ものづくり工学科のスタイルとして定着している。 実習への出席率は、おおむね良好である。 実習時は、常に職員が生徒への安全に配慮している。また、引き続き生徒の安全意識を喚起し、無事故を継続していく必要がある。 ★90%達成見込みである。2月初旬に生徒アンケートを実施予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、服装、片づけ、掃除については習慣化し、自主的にできるようになった。 遅刻・欠席は、特定の生徒に集中している。アルバイト・仕事の都合もあるが、今後も根気強く指導していくことが必要。 授業での安全確保、生徒の安全意識は高いが、現状に満足せず、継続的な指導と確認が必要である。 	

2019(令和元)年度の行動計画

重点	取組	具体的な取組			中間評価・今後の取組等	年度末評価・改善案・次年度取組等
		担当	取組内容	活動指標・評価指標		
特別支援教育を充実させます	通級による指導の充実を図るため、校内体制の構築、校内環境の整備を進めます	教育相談特別支援	「コミュニティデザインA」の内容を確立すると共に、来年度から実施予定の「コミュニティデザインB」および「未来デザイン」の内容や指導体制、従来実施している放課後SST・就労SSTとの関連等について整理します。また、通級指導で使用する「りとりと」のより効果的な使い方について考え、整備します。	通級による指導の内容や「りとりと」の使用について、全職員の8割の共通理解を得ること。	・年度初めに作成されたローテーション表により、研修という形で、毎時間1～2名のゲストティーチャーに授業に参加してもらうことで、内容や進め方についての理解を進めている。また、来年度以降の新科目の進め方やりとりととの使用方法については、案を作成している最中である。	・担当の人数不足により、「コミュニティデザインA」の内容を確立や、来年度から実施予定の「コミュニティデザインB」および「未来デザイン」の内容や指導体制、従来実施している放課後SST・就労SSTとの関連の確認、通級指導で使用する「りとりと」のより効果的な使い方について十分取り組むことができず、評価目標を達成することができなかった。次年度引き続き取り組む必要がある。また、通級指導の実施状況について、さらに効果的な共有のしかたを考えなければならない。
	対象生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細やかな支援を行います	教育相談特別支援	特別な支援を要する生徒のために、発達障がい支援員の助言を受け、担任とともに「個別の指導計画」を作成し、それを活用した支援と指導を、全職員の共通理解のもとに行います。また、通級による指導については、保護者・生徒との面談を学期に1回持ち、合意された個別の目標に沿って指導します。	該当生徒に対する指導が、「個別の指導計画」に則り、全職員の共通理解の下で行われたと考える担任の数が延べ8割以上となること。	・今年度は、チェックシートによる調査の結果、あがってきた生徒一人ひとりについて、全教職員から情報を集め、整理し、共有を図った。ここで得られた多面的な情報に基づき、今年度特別支援対象となる生徒を決定し、現在、発達障がい支援員同席のケース会議を実施し、指導計画を作成中である。	・今年度新たに実施した情報収集により、支援の必要な生徒一人ひとりについて多くの目による見立ての上で個別の指導計画を作成することができた。また、新たに特別支援の対象とした生徒だけでなく、継続して支援の必要な生徒についても指導計画を見直し、共有することができた。 ・通級指導のための面談は学期毎に実施できたが、通級指導受講生徒のいないクラスの担任や担任以外の教員に内容を示すことができず、次年度改善に取り組む必要がある。
信頼の取組める学校・教職員である	教員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、適切に行動できるよう、規範意識の醸成を図ります	管理職	職員会議において、校長による服務規律等に関する訓話を行い、またコンプライアンスミーティングを実施します。	・定例職員会議での啓発 ・7月にコンプライアンスミーティングを実施し、具体的事例に基づき協議し意識の醸成を図る。	・定例職員会議において校長より訓話 ・7月25日コンプライアンスミーティング実施 今年度は「飲酒運転をしない、させない職場となるために」をテーマに班別で話し合い、全体での共有を図った。	・校長より定例の職員会議だけでなく職員打合せの時間を使って、直近の事例を挙げながら啓発を行った。 ・コンプライアンスミーティングにおいては、少人数で班編成を行うことで意見交換を行いやすくするとともに、各班での意見を全体で共有することによって規範意識の醸成に繋がるよう努めた。
	教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる職場環境をつくります		校長による面談を実施します。職員満足度アンケートを実施します。	職員満足度アンケート ・「日々の仕事にやりがいを感じている」の『満足』が30%以上 ・「校長や教頭はいろいろな意見を聴き取っている」の『満足』が50%以上	7月実施の職員満足度アンケート（4段階）において ・「日々の仕事にやりがいを感じている」の満足度4（満足）＝12.8%、3（やや満足）＝66.6%、2・1＝20.5% ・「管理職はいろいろな意見を聞き取っている」の満足度4（満足）＝43.5%、3（やや満足）＝46.1%、2・1＝10.2%	・校長による面談は、期首・中間・期末の3回実施（予定含む）。 ・職員満足度アンケートの結果については、「満足」「やや満足」を合わせると比較的高い数値になるが、『満足』は目標とする評価指数には達していない。特に「日々の仕事のやりがい」については、目標の半分にも達することができなかった。この点については、今後満足度を高められるよう改善策を検討していく必要がある。
まとめる 勤務時間を縮減及び働きやすい環境の整備を行います	「定時退校日」「部活動休養日」等を設定し、働きやすい環境の整備に努めます	管理職	「定時退校日」を月1回設定します。	定時退校日に定時退校できた教職員数90%以上	・上半期は、ほぼ設定した日には、定時退校に協力してもらっている。	・目標とする評価指数を達成することはできた。
			「部活動休養日」を設定します。	部活動休養日を週1回以上設定するクラブ数100%	・全てのクラブで設定し運用してもらっている。	・各クラブとも休養日を設定。目標とする評価指数を達成することができた。
			長期休業期間中に学校閉校日を設定します。	夏季休業期間中に2日間・冬季休業期間中に1日設定	・夏季休業期間の学校閉校日（8月13日・14日）は、職員の約90%が夏季休暇等を取得。	・今年度は、夏季休業期間（8/13、14）・冬季休業期間1日（1/6）を設定。職員の90%以上が年次有給休暇等取得。
			休暇取得日数の現状維持に努めます。	年次有給休暇取得日数15日以上 以上の教職員数60%以上	・年次有給休暇の取得を下半期も促していく。	・年次有給休暇の付与日数20日以上で取得数15日以上以上の教職員数は64%で、概ね目標とする評価指数を達成することができた。 ・今年度、一斉行事時における職員打合せ時間を見直すなど、年次有給休暇取得促進につながるよう工夫を行った。
			時間外労働時間の縮減を図ります。	学校全体の時間外労働時間の平均を3.5時間以内 月80時間超の教職員0	・上半期、時間外労働の平均時間は3.5時間。月80時間超の教職員は0。今後も勤務時間の割り振り調整や振替休暇により超過勤務時間の解消を促していく。	・学校全体の時間外労働時間の平均は3.8時間（12月末現在）。超過勤務時間については振替休暇や勤務時間の割り振り調整等の制度活用により解消できつつある。
	会議の効率的な運営により、時間の短縮を図ります		会議を1時間以内に終了するよう努めます。	1時間以内に終了した会議の回数90%以上	・上半期1時間以内に終了した会議の回数は約6割に止まっている。主な要因は運営委員会の時間超過である。今後運営委員会の運営に当たっては、夜間部の始業時間も考えたうえで効率的な会議となるよう対応を考えていく。	・運営委員会など一部の会議で1時間を超えることがあり、目標とする評価指数を達成できなかった。次年度、特に運営委員会の効率的な持ち方について考え、改善に努めていきたい。